

学校
法人 内丸学園
盛岡幼稚園

園報

第 247 号
(12月)
2018

読書力・絵本の読み聞かせ

盛岡幼稚園 理事長 坂本 洋

絵本の読み聞かせは、幼児教育において欠かすことのできない大事な活動です。ご家庭においても、子どもの育つ過程で必ずや楽しい、面白い絵本をたくさん読み聞かせ、将来は本好きで読書力のある子に育って欲しいと願っていると思います。

読書力・絵本の読み聞かせは、考える力、感じる力、表す力、豊かな情操を育て培う基盤です。しかし若者の読書離れ、活字離れ(文字媒体の利用率低下)と言われる最近では、様々なメディアの発達・普及や多種多様な情報の混雑などを背景に、言葉を多用し文字を使うことが減少しており豊かな感情表現や意思伝達に支障をきたすと

憂慮されています。

ですから教育現場では、法律に基づく第4次・子どもの読書活動推進が進行中です。主な課題は、小中学生の不読率(本を読まない)は中長期的には改善傾向ですが、高校生の不読率は依然高いと言われることへの対応。いずれの年代においても第3次計画で目標とした改善は図られていないと深刻です。そのため読書習慣の形成に向けて発達年代ごとに取組を行っておりますが、乳幼児期においては効果的に進展充実が見られております。

乳幼児にとつての絵本は、幼児に一人で読ませることよりも、読んであげる絵本を中心に親子の触

れ合いスキンシップに重点を置き、読んでもらい耳で聞き言葉を感じ心を育てること。幼児の心が落ち着き、知識や想像力を伸ばすこと。大人と一緒にいることに安心感や愛着心が育つことを重視します。

小学校に入ってから読まない子どもが多くなる状況の対策が必要と考えます。読書離れの要因は色々ですが、メディアの発達で情報が多すぎ、あまりにも絵本があふれ何をどう選べばいいか混乱します。この度当園の先生方に、ここ5年位で発行された読み聞かせたい絵本を3冊選んでいただきました。14名の先生からの回答、同じ絵本の選択はなく42冊が選ばれ予想に反しました。逆にこれほど新刊絵本があふれていることに納得しました。読みたい、読ませたい絵本の情報を適度に与えられる環境整備をどうするか考えなければいけません。今回の絵本調査で半数は園にありましたが、無い物の購入を図書担当の先生にお願いしました。その中から私自身の好みで3冊を選んでみました。いしやがよい(福音館・さくらせかい作)、くろくんとちいさいしろくん(童

心社・なかやみわ作)、きょうのおやつは(鏡絵本)(福音館・わたなべちなつ作)。鏡絵本は、とても不思議な感覚と立体感があり身近なおやつを題材、なぜ、どうしての心の動き。いしやがよい、とてもほのぼのとした心の温かさを感じ、文章の抑揚リズム感が心に残り読み聞かせにびったり。くろくんとは、友達をいたわる気持ちや自分と違うところを受け入れる心の育ちを触発する絵本。

何度も読み聞かせているうちに、興味を持って自分自身が手に取るようになってくれることを心に念じて、ご家庭でも子どもと一緒に親しむ読み聞かせをお願いします。



新刊読みかかせたい絵本

子どもの遊び・生活から

日々の経験から

いちごクラス担任

高橋

来夢



あつという間に十二月に入り今年も終わりに近づいてきました。運動会やトトロランド等の行事にも参加し、また一つ大きく成長した姿の子どもたちです。その中でもトトロランドでの買い物ごっこの経験がその後のごっこ遊びに繋がっています。お兄さん・お姉さんの真似っ子から始まり「いらっしやいませ」「どれにしますか」と保育教諭と一緒に作った品物を並べて店員さんになる子、そこへ「これください」とお客さんになって買い物を楽しむ子でお店屋の場は大賑わいでした。また積み木を繋げて電車ごっこをしたりベットを作り病院に見立てて遊ぶなど子ども達の経験したことや「○○みたいだね」と言った何気ない子どもの発想が遊びを広げていく材料となることも…。

時に友達と物の取り合いになりトラブルになる場面も見られます



いちごクラス「わなげごっこ」

が以前より「どうぞ」「待ってね」といった言葉が増え、物の貸し借りや順番を守るうとする姿も少しずつ見られるようになってきました。こうした友達との関わりの中で様々な経験を重ね、更に成長していく子ども達の姿がとても楽しみです。元氣いっぱい、笑顔が素敵ないちごクラスの子ども達。これからも、楽しく園生活を送れるように見守っていききたいと思います。



「さくごやまかせー」

Bクラス担任

竹岡

真美



11月14日に行われたトトロランド。Aクラスがホールでお店やさんをするのがメインですが、Bクラスも廊下でお店を開きました。お客さん役だった昨年と違ってお店やさんもできるということで、張り切つてやりたいお店を考えて準備を始めました。お店やさんをするのは初めてなので、子ども達のイメージを聞きながら準備できるように担任からも材料や作り方を提示し、一緒に品物を作っていました。

楽しみに迎えた当日朝、メニューが揃ったお店から品物を並べて開店準備をしていきます。すると、さっそく大きな声で「いらっしやいませー！」と繰り返すみんな。しかし、開店まではまだ1時間以上あったので、その元氣は一旦温存してもらいました。時間になつていよいよ開店すると、お客さんから受け取ったお買い物券を嬉しそうに見せてくれたり、一生懸命呼び込みをしたりする姿もあり、最後には用意した品物はほと

んど無くなりました。そして後半は、お客さんとしてAクラスさんのお店で楽しませてもらいました。この経験をもとに、Aクラスになつたら友達同士で相談しながらお店作りを進め、より「子ども達主体」のトトロランドができるでしょう。来年のみんなに期待です。

作る楽じゃ・おもちゃ

C1クラス担任

向井 里奈

今年のふたばまつり作品展は、「絵本の世界」をテーマに、様々な素材に触れながら、各クラス工夫を凝らして作り上げました。子供たちにとって一番身近な「絵本」から取り上げることで『おもしろそう』『やってみたい』という興味・関心を誘いながら、この制作あそびにつなげていきました。

3歳児は、『くろくんとふしぎ』などもだちの絵本から、ペーパー芯や新聞紙、紙コップ等、身近な素材を用いて、クレヨン作りに挑戦しました。友達とのやりとりから「どんな色が好き？」と自然と口ずさみながら、絵の具をぬりぬり、楽しげに作る子供たち。だんだんとクレヨンの形になってくると、絵本に出てくる「頭を滑らせ



「なにつくってるの?」「あのね…」

て」の表現を真似て、描く素振りを見せながら作る姿に、子供なりにイメージを膨らませ、作る楽しさ・おもしろさを感じているのが伝わってきました。また、『ガラスのやおやさん』の絵本から、紙粘土のフワフワの感触や秋の素材を存分に使い、野菜作りを堪能していました。

それぞれが自分なりに、「どうしようかな?」と考えて作ることで、いろんなひらめき・発想が生まれていくと感じています。これからも一人ひとりの個性を大切に、自分なりに作る楽しさへつなげていきたいです。

保育参観を終えて

保護者の方から

母と子の涙

北田 久子 (A 理温)

「あと何分いられる?」

十一月の参観日、息子が何度も聞いてきました。それもそのはず、保育参観の後、私はすぐに仕事に戻らなければならず、お家の人と一緒に帰れるお友だちがうらやましかったのでしよう。六月の参観日の時は、みんなが笑顔でダンスする中、泣きながら踊る息子に心の中で「頑張れ」と応援するしかありませんでした。

今回の参観日は子どもたちが様々な工夫を凝らしたお店を開く「トトロランド」でした。

「ぼくは、おぼけめい屋さんだからね、絶対来てね。」

わくわくして登園した我が子でしたが、内心(また帰りに泣かれるのかなあ)と不安と期待が入り交じった気持ちでした。案の定「あと何分?」と聞きながらも、店番を頑張っている息子を見て少し安心しました。



トトロランド

「この蜘蛛の絵ぼくが描いたんだよ。本当は迷路に屋根も付けたかったけれど無理だった。」

など、子どもながらに一生懸命準備したのだなと感心しました。最後に、「USA」のダンスを今度とは泣かずに踊ってくれました。成長した我が子の姿が嬉しくて、今度私が涙ぐみました。

いつも子どもたちの成長を温かく見守ってくださる先生方に感謝しています。卒園まであと少しですがどうぞよろしくお願いします。

びっくりにくまさん

菅野 宏美 (C 将平)

今回の参観日で歌うたやゲームを将平に聞いてみたら「まだないしょ」ということで当日を楽しみにして一緒に登園しました。

いつも玄関で見送るのでひとりで荷物を整理したり、どのシールを貼ろうかなと悩んでいるところ、元氣いっぱい「どんぐりころころ」などを歌うところ、ホールで大きなマルチパネルをあつという間に組み立てた頼もしいところ、お友達が鉄棒で足ぬきまわりをしているのを見て、さっそくマネしたらできるようになって自分でもびっくりしているところなど、どれも成長を感じるかわいらしい姿をみることができました。

親子ゲームでは「びっくりにくまさん」をしました。将平はクラスのみんなでやっていた時から大好きなあそびでいつも「びっくりにくまさん」と間違ったままかわいい声で歌っています。輪になった子どもたちに囲まれてびっくりにくまさん、むっくりくまさん穴の中、の歌が終わるとくまさん役の親が自分の子にタッチするのですが、

なかなかつかまらない子もいて白熱する場面もありました。そんななか将平は「つかまえるのが早かった」と私へのダメ出しから「自



幼稚園の取り組みから

ふたばまつりを終えて

ふたばまつり実行委員長

南部 志摩 (A秀輔)

楽しいことは、自分で創造できる。みんなで作れば、もつとできる。社会へ出て行く子ども達が、わくわくして未来を創っていきけるように、私達も楽しみながら「おまつり」をつくり、その過程を味わいました。

幼稚園全体が、子ども達をあたたくく包み込むようなふたばまつりになるように、想いを込めて取り組みました。そして、「お店屋さん」を通して、ワクワクする気持ちも伝わると思います。

おまつり当日、冷たい雨の中、幼稚園が子ども達の笑顔でいっぱいになった時、こどもってかわいいな、幼稚園ってかわいいな、と改めて思いました。当たり前ですが、その気持ちを十分に感じる事ができました。

分がくまさんになりたかった」と号泣していました。(笑) まだ小さいままでいてほしいなとも思った参観日でした。

お仕事をされている保護者が多い園ですが、その分様々な場で活躍されているので、人脈やスキル、アイデアを持つている方が多いのではないのでしょうか。一人では成しえない事も、出来ることを出し合っていたら、今後もふたばまつりを続けていけると思います。是非、この先も続いてほしい行事だと思います。

今年度は幼稚園生活最後の年で、このような機会をいただけただけことは大きなギフトでした。支えて下さった皆様に、心より感謝申し上げます。

未就園児サークル

「トトロハウス」

担当 舟越 恵子

今年度の未就園児の集い「トトロハウス」。4月〜12月まで、毎回10組〜15組、時にはそれ以上の親子の参加になることもありました。お家の方や仲良くなったお友だ

ちと一緒にパズルやままごと、電車やトミカ、すべり台やコンビカー等で好きな遊びをしたり、活動では運動遊びや季節の制作を楽しみました。夏には、シャボン玉や砂遊びも楽しみました。

また、月一回のダンスでは、先生と一緒にステージ上に並び、すっきり気持ちの上では「小さなダンスの先生!?」でした。11月に行われたトトロランドでは、たくさんのお買い物をし、買った品物をみんなで見せ合い、翌週にはお家の方から「お買い物楽しかったです」と言っていました。とお話もありました。

トトロハウスに参加し始めの頃は、慣れない環境に戸惑い、親子だけの遊びを楽しんでいた子ども達も、回を重ねるごとに顔見知りになり、子ども同士でお話したり、一緒に遊んだりできるようになりました。週一回、限られた時間の中でしたが、上手に歩けるようになったり、お話ができるようになったり・・・たくさんの笑顔と成長を見られたことが嬉しくもあり貴重な時間でした。これからの経験に活かしていきたいと思っております。

編集後記

早いもので今年も締めくくりの時節となりました。例年ない猛暑だった夏・・・暑さ指数計を購入し保育にあたっていた頃が先日のように思い出されます。2学期の子ども達は先生との信頼関係を基盤としてどんな自分の世界を広げている真っ最中です。友だちとのかわりにも深まりが見られるようになってきました。日々成長している子ども達ですが、これからも一人一人の育つ力を心に留めて見守っていききたいと思えます。アドベントが始まり、聖誕劇の練習も始まりました。クリスマスの意味を知り、静かにその日を待ちたいと思います。今年度もたくさんの方々にご協力をいただきましたことを感謝申し上げます。



学校法人 内丸学園
 幼保連携型認定こども園
 盛岡幼稚園
 〒〇二〇〇〇二一
 盛岡市中央通一六一四七
 Ⅷ六二二一三三〇一
 理事長 坂本 洋